

[成果情報名] 赤川における春季のサクラマス遡上状況の予測方法

[要 約] 赤川河口での釣獲調査の結果、報告尾数と2月のCPUE とには強い相関があった。また、赤川での報告尾数と最上川河口での刺網漁による採捕尾数とも強い相関があった。

[部 署] 山形県内水面水産試験場・資源調査部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 研

[キーワード] サクラマス、CPUE、春季の遡上状況

[背景・ねらい]

赤川河口ではサクラマス釣りが盛んに行われており、内水面水産試験場では釣獲調査を毎年実施している。また、4~5月の最上川河口の刺網漁についても、その採捕尾数を調査している。サクラマスの春季の遡上状況について、今回新たな知見が得られたので報告する。

[成果の内容・特徴]

1. 調査は平成13年から19年の2~5月に赤川河口域で実施した。2~5月のほぼ毎日、サクラマス釣獲尾数、釣り人の数、水温及び天候等を調査員が記録した。なお、赤川河口域とは、調査員より釣獲の報告があった、鶴岡市櫛引より下流とする。
2. 毎年の月別の釣り人の延べ人数で報告のあった2~5月の釣獲尾数を割った値（CPUE）と年毎の2~5月の延べ報告尾数（以下、報告尾数）との関係を図1に示す。年毎の2月のCPUEと報告尾数にはほぼ同様な推移がみられた。
3. 報告尾数と2月のCPUE とには強い正の相関があった（ $R^2=0.75$ ）（図2）。2月のCPUEより、その年の春季の赤川でのおおまかな釣獲尾数が予測できると思われる。
4. 平成13年から19年の赤川における報告尾数と最上川河口における刺網漁による採捕尾数とは強い正の相関があった（ $R^2=0.64$ ）（図3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 調査員の変更や気象状況等により、年によりデータの精度は変化すると思われるが、その年の春季のサクラマス遡上量をおおまかに予測する手法として利用できると考えられる。
2. 予測の精度を高めるために、データの収集を継続する必要がある。

[具体的なデータ]

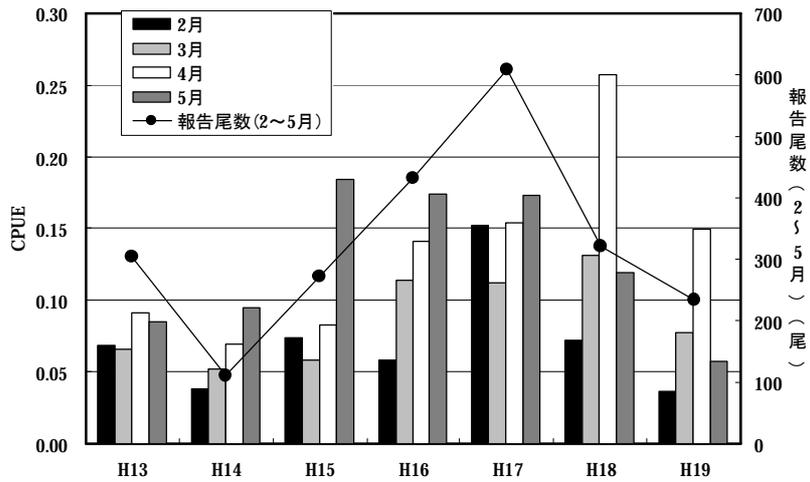


図1 赤川における平成13年～19年の月別CPUEと報告尾数の年別推移

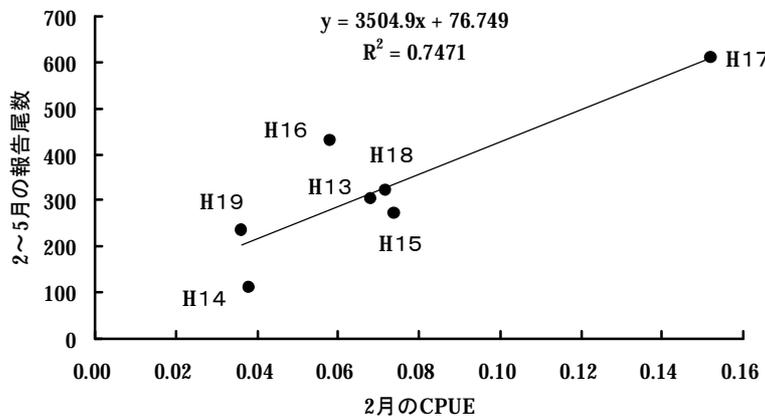


図2 赤川における報告尾数と2月のCPUEとの関係

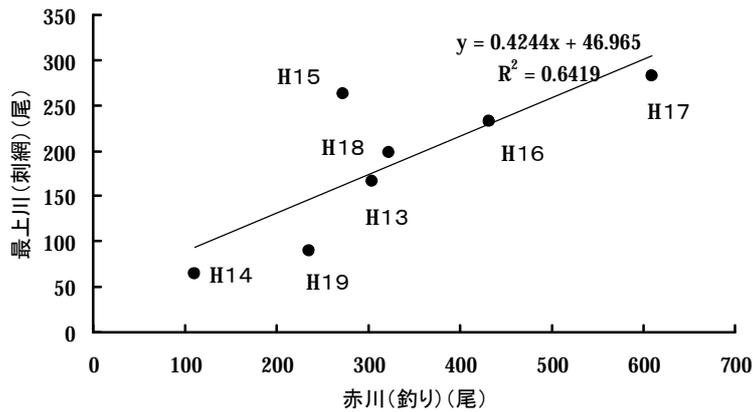


図3 報告尾数についての赤川と最上川との関係

[その他]

研究課題名：河川生産力を生かした魚類増殖手法の開発研究（サクラマス）

予算区分：県単

研究期間：平成19年度（平成17～21年度）

研究担当者：河内 正行

発表論文等：